

●一乗城跡

朝倉義景館跡よしかげの東方にそびえる「一乗城山」は福井市安波賀町・城戸ノ内町・東新町、美山町三万谷にまたがる山で、その尾根上には南北約600m、東西約200mにわたって一乗城の跡が極めて良好な状態で残されています。



江戸時代に描かれた『一乗谷古絵図』（春日神社蔵）には山上御殿群とも呼ばれる千畳敷、不動清水、観音屋敷、赤淵神社、宿直、月見櫓などの方形区画群がみえます。また、一の丸、二の丸、三の丸などの名前が付けられた防御するための連続曲輪群を見ることが出来ます。

●特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡

福井市の南東約10キロ、一乗谷にある朝倉氏遺跡は、戦国時代に朝倉氏が5代、約100年にわたって越前の国を支配した城下町跡です。

昭和42年から発掘調査が進められ、昭和46年に一乗城を含めた278haが国の特別史跡に、平成3年には遺跡内の4庭園が特別名勝に、また、平成19年には、出土した輸入陶磁器や生活用具など約2,300点が国の重要文化財に指定されています。

●第60回全国植樹祭

全国植樹祭は、豊かな国土の基盤である森林・緑に対する国民的理解を深めるために行う国土緑化運動の中心的な全国行事で、毎年春季に開催されています。平成21年度は福井県において「未来へつなごう元気な森元気なふるさと」を開催テーマとし、福井豪雨災害からの復興を果たした一乗谷朝倉氏遺跡で6月7日に天皇皇后両陛下ご臨席のもと開催されました。現在は、第60回植樹祭を契機として、「木を伐って使う」ことを重点とした県産材の利用拡大と森林づくりを一層強力に推進するとともに、3つの県民運動を展開しています。



林道 美山線について

- 福井市田尻町の158号線から同市赤谷町を結ぶ森林基幹道
- 全長19,400m 幅員5.0m 1級林道
田尻町から登山口までは全線舗装（途中から赤谷町まで未舗装）
- 新緑、紅葉など季節の移り変わりとともに自然を堪能できるドライブコースです。

●林道のはたらき

林道は、森林を健全な状態で維持・管理し、森林からのさまざまな恩恵を永続的に私たちの生活の場に運ぶために不可欠な施設です。また、森林と山村・都市を結び、森林を憩いの場として提供するなど大切な役割を担っています。

●森林の地球温暖化防止機能

森林は光合成により、大気中の二酸化炭素を吸収・固定して成長します。間伐をすることで、木が大きくなり成長できるようになり、伐った木材も、エネルギー負荷の少ない環境に良い資材として使用できます。



林道からの木材積み込み



林道ウォーク開催

林道を運転するための5箇条

1. スピードを落として安全運転を
急勾配が多いため、スピードは控え安全運転で走ってください。
2. カーブでは徐行を
カーブでは視界が悪いため徐行し対向車の確認や警笛で注意喚起を行ってください。
3. 路肩の走行は禁物
道幅が狭く、草などで見通しが悪い箇所では谷側に寄らないで走ってください。
4. すれ違いには待避所などを利用
対向車を発見したら、早めに待避所など広い場所で停車し、あながい譲り合いながら走行してください。
5. 落石注意！小石の落下は山崩れの前兆
落石等がある箇所では、斜面の安全確認してください。
土砂や小石がバラバラと落ちてくる場合、素早く避避してください。

マナーを守って走りましょう

山火事防止のため、たばこのポイ捨てはしないでください
ゴミは捨てないで、持ち帰ってください



ふっくりん

ドライブ&ウォーキングマニア

林道美山線

一乗谷朝倉氏遺跡山城をめぐる



福井県農林水産部森づくり課
〒910-8580 福井市大手3丁目17番1号
TEL. 0776-20-0445

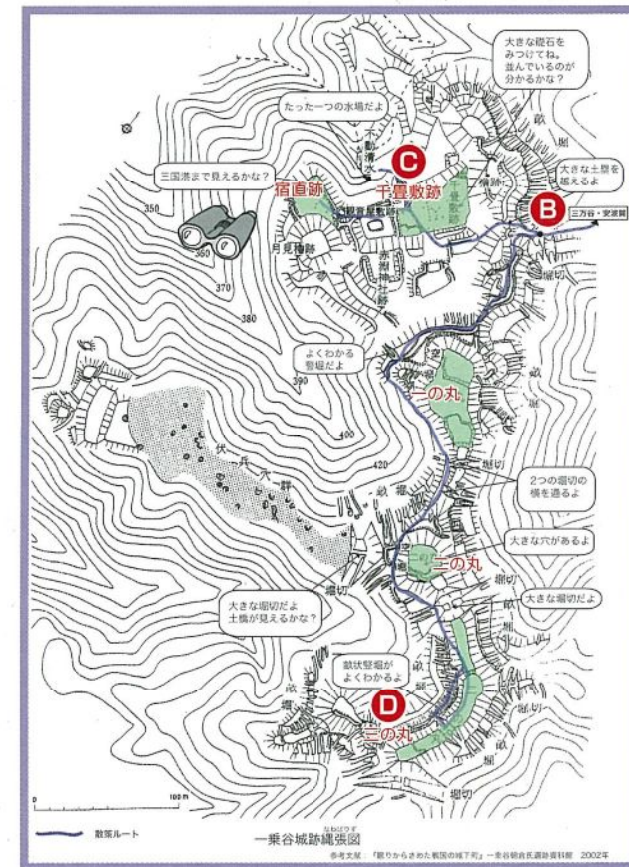
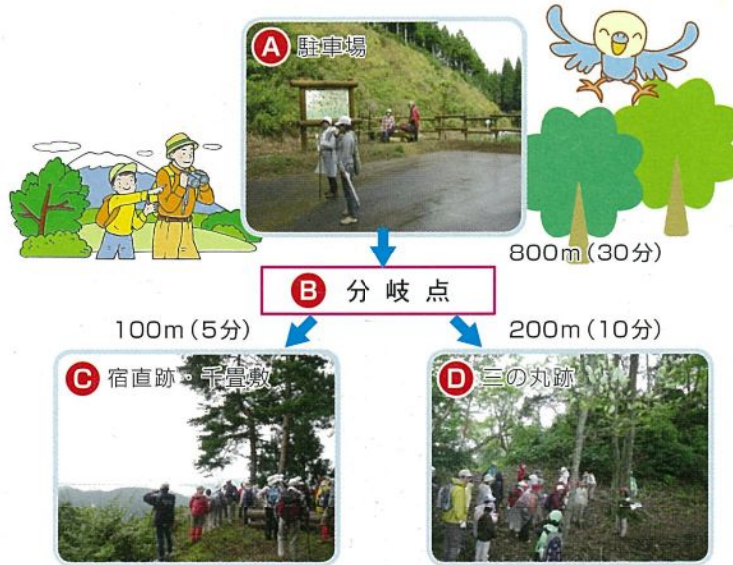
福井農林総合事務所
〒910-0003 福井市松本3丁目16-10
TEL. 0776-21-0010

一乗谷朝倉氏遺跡山城へのアクセス

至 田尻町



宿直跡・千畳敷から福井平野の眺望



《方形区画群》

千畳敷跡：一乗城で最も広い平坦地で、広さは約1,500㎡です。地表には十数個の大きな礎石が露出していることから、大規模な建物があったものと考えられます。また「一乗谷古絵図」では、千畳敷と万畳敷跡とされています。

不動清水：千畳敷跡の約30m下方にある水場で、山城で唯一の水源となっています。この清水は、荒らすと荒天となると言われています。

また、ここより馬出地区に下山する途中には、三体仏といわれる線影の地藏菩薩を見ることが出来ます。(右写真)



観音屋敷跡：千畳敷跡の南に接して、三方が土塁で囲まれた広さ約400㎡の平坦面です。棟石が残され、礎石も露出していることから、何らかの建物が建っていたものと考えられます。

赤淵神社跡：観音屋敷跡の上方に位置し、朝倉氏の氏神である赤淵大明神を祀ったという神社跡です。建物の礎石や棟石なども現存しています。なお、西の御草山にも赤淵神社跡があります。

宿直跡：観音屋敷の西南方向には、不整形をした広さ約750㎡を測る宿直跡があります。観音屋敷からの通路には石垣土塁の虎口があります。少数ですが建物の礎石が露出しています。

ここからは、一乗の城下町、足羽川や坂井平野、そして遠くには日本海を望むことができます。三国湊までよく見渡せることなどから、戦国時代には見張りが居たところとして考えられています。

《連続曲輪群》

一の丸：広さ約1,100㎡の楕円形で、西南側下段に約250㎡の突出した平坦面を持ちます。北西側裾には空堀を設け、東南方の二の丸側は2条の堀切があります。

二の丸：一の丸とは2条の堀切で区画され、広さ約570㎡の楕円形です。南西側には幅16.5m、深さ3.9mを測る堀切があり、土橋で渡ると尾根筋には「伏兵穴」と呼ばれる直径約3mの窪みが多数確認されます。

三の丸：南北長約110mを測り、コ状に細長い曲輪である。標高473.58mの基準点のある約430㎡を測る曲輪がここでの中心と見られます。北曲輪と中央曲輪は幅8.3m、深さ6.5mの堀切によって区画されており、南曲輪との間には幅19.4m、深さ3.8mの堀切があります。また、空堀が巡っていると見られ、東西の斜面で比較的よく観察されます。

敵状堅堀：一乗城を取り囲むように、等高線に直角の方向に掘られた堀で、約140条以上の堀が掘られています。現在確認できるものは長さ5～25m、幅3～5m、深さ0.6～1.5mを測ります。

永禄8年(1565年)に写された『築城記』には「タツホリ」の記載がみられます。また、地元では「ササギ畦」と呼ばれてきました。横方向の移動を防いだり、登ってくる敵を一行にし、防衛しやすいよう考えられていたようです。

林道 美山線 周辺マップ



一乗谷朝倉氏遺跡の唐門



林道沿線の足羽杉の美林



宿直跡・千畳敷からの眺望



出典：越前朝倉氏・一乗谷眠りからさめた戦国の城下町 福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

